



昇段レポート

小 縣 好 美 初段 (岐阜太田道場)

～2018年6月10日取得～



この度は、昇段審査を受けさせて頂きまして、太田師範、誠にありがとうございます御座いました。自分が極真空手を始めようとしたきっかけは、昔の職場に高校で極真の黒帯だった同期生がいて、その方はどれだけ仕事をしても疲れたとか弱音を吐かず、休まず仕事をこなしていました。何て芯が強いのだろうと思いました。そしてその人の様になって欲しくて、子供に極真空手を習わせ、将来困難な事が有っても負けない強い人間にする為にやらせようと思いました。しかし、子供だけやらせるつもりでいましたら、父と一緒に無いとやらないと言われて、子供の為に恐る恐る入門させて頂きました。始めてから、試合や組手では帯が下だったりしたら、カー杯できるのですが、少しかい相手や帯が上の人だと力を出せず下がってしまいます。太田師範から子供が見ているのに、なんだその戦いはと何回も叱られて来ました。そして自分の子供には厳しく試合も練習もさせて来ました。長男が6年生の静岡の大会でいつもの様に腹に効いてしまい、又負けたと思った時に、うわーと気合を入れて攻撃した時に、この子が変わったと実感しました。この事が自分より子供に空手を続けさせた事が本当に良かったと思いました。そして子供たち三人高校卒業するまでは空手を続けさせました。四十歳の時に、四人目の男の子が生まれて来ました。またこの子が中学卒業するまで空手を続けて、厳しく組手や稽古の相手ができるか心配でした。そして上の三人はあまり強く無かったので、最後の子は強い根性が有る様に育てる為に、自分が歳を重ねても子供が強くなる為に、自分も頑張っ続けて続ける決意になりました。

空手を続けて今年で16年目になるので、1月から気合を入れて稽古をしていましたら、師範から昇段審査受けても良いよと言われました。まだ型をきっちりできていなかったのが大丈夫だろうかかなり心配でした。極真空手は、型も組手もしっかりできて、やっと黒帯になれるので、自分にはまだそこまで辿りつけていないので心配でした。しかし太田師範からは、やれる時にやったほうが良い、また何時出来なくなるから覚悟を決めなさいと言われ、黒帯の先輩にあれだけ言われれば引き下がれないねと促されて、師範に稽古と稽古が終わってからも、師範に付きっきりで教わりました。前から型を覚えるのが苦手で、いつも師範から他の人より多く指導を受けて、ここまで型を覚えられたのは師範のおかげであると感謝しております。

審査当日基本が始まって、前で審査を見ている師範の顔を見たら全部カー杯、全力でやらないかんとはいじめました。そしてその審査は小四の息子と一緒に受けていまして、息子がカー杯やっていて、自分が楽にやってはいけないと思いました。そして移動のときに、後に今後昇段審査を受ける、緑、黄色帯の一般の道場生が見ていたのが、極真の黒帯は楽に取れると思われぬように、カー杯最後まで全力を出し切りしました。型は見栄えの良い綺麗な型は自分にはできません、力強くごつい動きで精一杯やりました。補強あたりから苦しくなり、腕立て伏せは浅くなってしまいました。なんとかやりました。

十人組手は、道場生が真剣にやってくれたので辛かったです、9人目ぐらいでバテてしまいましたが、最後十人目は一人と思ひ、最後に手を抜かず力を出し切りしました。

十人組手を何回か相手をしていただきました道場生の皆様、本当にありがとうございました。

がむしゃらで受け、次の日になりましたら体中が筋肉痛でがちがちになり、やはり昇段審査は体にかかなり負担になっていたとつくづく感じました。やはり極真空手の黒帯に成る事は生半可な事では無いと悟りました。黒帯になっても、常に弱い自分に打ち勝つ為に親子共々精進していきます。

太田師範に親子5人受けた恩を、何かの形で返していけるように頑張りますので、これからもよろしくお願ひします。

押忍